



青森県漁業士会会報

R7.4 vol.29

浜風

HAMAKAZE

発行：青森県漁業士会

青森県水産振興課内

017-734-9592

編集：「浜風」編集委員会



はじめに

青森県漁業士会は、平成元年12月に発足し、4つの支部から構成されています。

主な活動は、水産教室の開催など後継者育成や海浜清掃のほか、各支部独自に行う研修会や他支部・他漁業士との交流会の開催などを行っています。

今回、令和5年度及び6年度の活動状況等について紹介します。



令和5、6年度青森県漁業士会総会

令和5、6年度の青森県漁業士会通常総会は青森市で対面開催され、事業計画等について審議を行いました。また、総会後には講師を招いた研修会が開催され、令和5年度は国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖経営・経済室 三木 奈都子氏より「新規漁業就業者対策の取組について」、令和6年度は国立大学法人 東京海洋大学 名誉教授 東海正氏より「漁業における海洋プラスチックゴミ問題の状況と対策」について講演が行われました。

令和6年度には役員改選があり、下記新役員が選任されました。

- | | | | |
|-------|----------------|---------------|--|
| ○ 会 長 | 山下 幸彦（新深浦町漁協） | | |
| ○ 副会長 | 齋藤 大（青森市漁協） | 坂岡 正彦（三沢市漁協） | |
| ○ 理 事 | 船橋 智（平内町漁協） | 八戸 翼（平内町漁協） | |
| | 秋田 正明（横浜町漁協） | 沼部 啓市（小川原湖漁協） | |
| | 尾崎 幸弘（八戸みなと漁協） | 長内 詩子（鯨ヶ沢町漁協） | |
| | 山本 恵一（風合瀬漁協） | 白濱 信生（岩屋漁協） | |
| ○ 監 事 | 坂崎 祐也（風合瀬漁協） | 上小倉 良次（川内町漁協） | |
| | 中村 由美子（青森市漁協） | | |



令和5、6年度青森県漁業士認定証交付式

令和5、6年度に青森県漁業士認定証交付式が開催され、令和4、5年度に新指導漁業士として認定された4名へ認定証が、地方水産事務所長から推薦された新名誉漁業士11名へ感謝状が県から贈られました。

なお、令和6年度に青年漁業士及び指導漁業士として認定された17名は令和7年度に開催する認定証交付式において認定証が交付されます。

名誉漁業士になられた皆様には、長きにわたり地域漁業の振興や後継者の育成など、当会の活動に御尽力いただき、大変ありがとうございました。

○令和5年度



○令和6年度





新会員及び新名誉漁業士の紹介

○令和6年度青年漁業士

東青漁業士会



くどう こうや
蓬田村漁協 工藤 光弥（ホタテガイ養殖等）

この度、青年漁業士の認定を受けました工藤光弥です。ホタテガイ養殖業を主に営んでおります。小さいころから毎日のように朝早く沖に行って頑張っている両親に憧れ、悩むことなくホタテガイ養殖業を継ごうと思っていました。まだまだ漁業について何もわかっていませんが、漁業士の方々からたくさんのことを学んで早く一人前になり、両親に楽をさせてあげたいと思っています。

東青漁業士会



やまぐち こうだい
蓬田村漁協 山口 滉大（ホタテガイ養殖等）

この度、青年漁業士の認定を受けました山口滉大です。小型定置網とホタテガイ養殖漁業を営んでおります。取れたての魚を地域の方々が買ってくれる姿を見て、小型定置網漁業は地域の「食」を支える、とてもやりがいがある仕事と感じています。しかし、従業員の高齢化と人手不足に悩まされ、小型定置網漁業を続けていけるのか不安に感じています。漁業士会を通じて先輩方から各浜の状況や対策を伺うことができたと思っています。

東青漁業士会



なかじま しょう
蓬田村漁協 中島 翔（ホタテガイ養殖等）

この度、青年漁業士の認定を受けました中島翔です。私は今別町生まれですが、妻の生まれ故郷である蓬田村で後継者のいないホタテガイ養殖漁業者の方と出会い、親方の下で10年の下積みを経て、ありがたいことに組合員資格を譲り受けました。水産業界の担い手不足は痛感しており、私は第三者承継のモデルとして頑張らなければならないと思っています。漁業士の皆様からたくさんのことを吸収したいと思っています。

東青漁業士会



くどう かずゆき

後潟漁協 工藤 和行（ホタテガイ養殖）

この度、青年漁業士の認定を受けました工藤です。ホタテガイ養殖業に従事しております。稚貝不足を経験し、環境が変化していく中で生き物を育てることの難しさを痛感したと同時に、人との繋がりの大切さを感じました。漁業士会活動を通じて、様々な知識を学び、他地域の漁業士の方と交流・情報交換し連携を深めていきたいです。

東青漁業士会



えびな きりん

平内町漁協小湊支所 蝦名 稀麟（ホタテガイ養殖）

令和6年度に青年漁業士の認定を受けました平内町漁協小湊支所の蝦名です。ホタテガイ養殖を営んでいます。ホタテガイ養殖業を取り巻く厳しい環境を打開するため、活貝や成貝の生産に取り組んでいます。ホタテガイ以外の魚種にも目を向け、やれることは何でもやる気持ちで浜の活性化に取り組んでいます。漁業士会の活動に積極的に参加し情報収集に努めたいと思っています。

東青漁業士会



かとう ひかる

平内町漁協東田沢支所 加藤 光（ホタテガイ養殖）

令和6年度に青年漁業士の認定を受けました平内町漁協東田沢支所の加藤です。ホタテガイ養殖業を営んでいます。陸奥湾のホタテガイ養殖業存続のため、親となる大型の活貝生産を行い、かつ漁家収入の安定を目指しています。未来に続く養殖漁業を目指すため、漁業士会の活動に積極的に参加し、勉強したことを浜に反映させていきたいです。また漁業士会の先輩方から情報や技術を吸収していきたいと思っています。

東青漁業士会



しばさき りきや

野辺地町漁協 柴崎 力哉（ホタテガイ養殖）

このたび、青年漁業士に認定していただきました、野辺地町漁協所属の柴崎です。私で四代目となるホタテガイ養殖業を営んでおります。近年続く、海水温の上昇など激変する地球環境の変化は、ホタテのへい死、付着生物の増加などホタテガイ産業全体に危機的な状況となっています。持続可能な産業とするべく研鑽を積む所存です。漁業士諸先輩におかれましてはご指導のほどよろしくお願いいたします。

日本海支部会



くぼた りゅうた

小泊漁協 久保田 竜太（一本釣り等）

青年漁業士に認定された久保田竜太です。一本釣りや刺し網、潜りや底見による採介藻の漁業を営んでいます。

今は、町と漁協が主体となり、地域活性化を進めている「中泊活ハマクラブ」の会長を務めています。

先輩方から様々な知恵を学び、県内外の漁業者と交流を持ちたいと思います。御指導よろしくお願いします。

日本海支部会



いとう りゅうた

小泊漁協 伊藤 竜太（一本釣り等）

青年漁業士に認定された伊藤竜太です。一本釣りや刺し網、潜りや底見による採介藻の漁業を営んでいます。

魚の鮮度保持方法には自信がありますので、どうぞ何でも聞いてください。県内外の様々な漁業を見て、先輩方との交流を積極的に進めていきたいです。御指導よろしくお願いします。

日本海支部会



はせがわ たかのり

小泊漁協 長谷川 貴法（イカ釣り）

この度、青年漁業士に認定された長谷川貴法です。19トンの漁船でいか釣り漁業に従事しています。また、自分で釣ったスルメイカを加工・販売する6次産業化を進めています。いか釣り漁業者の交流だけでなく、様々な漁業を行っている漁業者や先輩方との交流を積極的に行いたいと思いますので、よろしくお願いします。

日本海支部会



おの きょうわ

車力漁協 尾野 叶和（底建網、シジミ漁）

この度、青年漁業士に認定された尾野叶和です。底建網とシジミ漁の漁業を営んでいます。シジミの知識については少し自信があります。

先輩方から知識と経験を学び、交流を深めることが目標です。御指導よろしくお願いします。

日本海支部会



やまさき かける

新深浦町漁協 山崎 翔（底建網、定置網）

この度、青年漁業士に認定された山崎翔です。新深浦町漁協に所属し、底建網と定置網などの漁業を営んでいます。今は、漁協や北金ヶ沢漁業振興会から依頼された仕事の作業等を行っています。

県内外の様々な漁業を見て、先輩方から知識を学び、交流を深めることを楽しみにしています。御指導よろしくお願いいたします。

○新指導漁業士 令和5年度

三八漁業士会



きだ しげのり

市川漁協 木田 茂則（定置網、ホッキ桁網）

このたび指導漁業士の認定を受けました市川漁協の木田です。令和3年8月の貨物船座礁事故以降、休業を余儀なくされていますが引き続き、漁協や組合員と団結してさまざまな問題に前向きに取り組み、次世代に模範を示すことができるよう努力していきます

○新指導漁業士 令和6年度

日本海支部会



すずき なおや

小泊漁協 鈴木 直也（一本釣り等）

この度、指導漁業士に認定された小泊漁協所属の鈴木直也です。一本釣りや刺し網、小型定置網、潜水や底見による採介藻漁業などで生計を立てています。

諸先輩方との交流を通じ、様々な漁業や漁業経営の方法を知り、地元の若い漁業者へ伝えていきたいと思います。御指導よろしくお願い致します。

三八漁業士会



たかはし のぶひろ

三沢市漁協 高橋 伸広 (イカ釣、ホッキ桁網)

このたび指導漁業士の認定を受けました三沢市漁協の高橋です。これまで、漁協で実施するほっきがいの資源量調査に協力すると共に、水揚げする魚介類の品質管理に努めてきました。この取り組みを継続し、今後も漁業経営の安定化に努めていきます。

日本海支部会



やまもと けいいち

風合瀬漁協 山本 恵一 (底建網等)

この度、指導漁業士に認定された山本恵一です。青年漁業士に認定されてから20年経過しました。自分もつくづく年を取ったものだと思います。現在は組合員が高齢化している漁協の経営を担う理事と地元の磯根資源を維持・復活させるための「風合瀬磯根資源研究会」の会長を務めています。

これからも地元の漁業振興を続けていきますので、今後ともよろしくお願いします。

日本海支部会



いとう のりゆき

新深浦町漁協 伊藤 智之 (一本釣り等)

この度、指導漁業者に認定された伊藤智之です。青年漁業士に認定されてから、14年経過しましたが、地元の先輩漁業者は高齢ながらも、まだまだ元気で、私は若輩の部類です。

今後は、私より若い漁業者と先輩方の橋渡しの役割を担っていければと思っています。今後ともよろしくお願いします。

むつ支部会



はまだ かずほ

大畑町漁協 濱田 一步 (定置網)

このたび指導漁業士の認定を受けました大畑町漁協の濱田です。

私は大畑町で定置網漁業に従事し、地域おこし団体である「海峡口デオ大畑」副会長として水産物即売会、漁獲体験ツアー等イベントを開催しています。むつ支部会の研修や活動にも積極的に参加し漁業に関する知識を深めてきました。これからも、指導漁業士として積極的に活動に参加し、地元漁業の活性化のために知識や技術を学んでいきたいと考えています。

○名誉漁業士の紹介

・令和5年度

みうら たつひこ

三浦 辰彦 (蓬田村漁協)

おおみや ちえこ

大宮 千恵子 (蓬田村漁協)

さわだ しげえつ

澤田 繁悦 (青森市漁協)

ふなはし みのる

船橋 稔 (平内町漁協)

はたなか みちやす

畑中 道安 (むつ市漁協)

さいとう えいぞう

齋藤 栄藏 (石持漁協)

むかい しょうこ

向井 彰子 (尻労漁協)

・令和6年度

おおかわ しょういち

大川 昭一 (新深浦町漁協)

そうま ぜんい

相馬 善意 (岩屋漁協)

はやし かずよし

林 一善 (尻屋漁協)

はちのへ ようこ

八戸 洋子 (川内町漁協)



令和5年度東北・北海道ブロック漁業士研修会

むつ支部会 横浜町漁協 秋田 正明

令和5年度の東北・北海道ブロック研修会は令和6年1月27、28日に茨城県水戸市において開催されました。青森県漁業士会は東青漁業士会から1名、むつ支部会からは私を含め2名が出席しました。

研修会に先立って行われた東北・北海道ブロック協議では、令和6年度全国漁業士連絡会議で提案するディスカッションテーマについて協議され、各県の出席者からは喫緊の課題である漁業士の確保、特に若手や女性漁業士の確保についてがテーマとなりました。各県漁業士が感じていることは、形は違えど皆同じなのだと協議を通して認識しました。

その後行われた話題提供では、茨城県水産試験場回遊性資源部 技師 子熊 進之介 氏を講師に迎え、「常磐南部・鹿島灘海域における魚種組成の変化」と題して講演が行われました。

研修会終了後の交流会においても他県の漁業士とホタテガイに関することや現在の海水温上昇による漁業を取り巻く様々な変化などについて意見交換を行うことができ有意義な時間を過ごすことができました。

次回開催県は宮城県であり、現在のところ開催時期は未定ですが、茨城県で交流を深められた参加者とまた会える日を楽しみにしています。



研修会の様子



令和6年度東北・北海道ブロック漁業士研修会

東青漁業士会 平内町漁協 ハ戸翼

令和6年度の東北・北海道ブロック研修会は令和6年8月29、30日に宮城県仙台市において開催されました。青森県漁業士会は東青漁業士会から3名、むつ支部会から1名、三八漁業士会から1名が出席しました。

研修会では、シャパンブルーエコノミー技術研究組合 理事長 桑江 朝比呂氏を講師に迎え、「ブルーカーボン制度の活用について」と題して講演が行われました。講演内では、全国各地で行われているブルーカーボンの取り組み事例の紹介が行われ、どのように制度を活用したか解説が行われました。

東北・北海道ブロック協議では、令和7年度全国漁業士連絡会議で提案するディスカッションテーマについて協議され、各県の出席者からは漁業士を確保するために、他県ではどのような取り組みが行われているか知りたいという声があり、「漁業士として活動するメリットについて」がテーマとなりました。本県でも新規で参入してくる漁業士の数が減っており、今後の新漁業士確保のための重要なテーマであると感じました。

研修会終了後の交流会においては、他県の漁業士と現在の海洋環境について高水温である状況下での漁業活動についてや、今後の漁業の在り方について意見交換を行うことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

研修2日目は、宮城県水産技術センターで視察を行い、アワビやヒラメの種苗生産現場の見学を行いました。

次回開催県は福島県であり、現在のところ開催時期は未定ですが、今回の研修において一緒に交流を深められた参加者と、また情報交換できる機会を楽しみにしています。



視察の様子



令和5年度日本海ブロック漁業士研修会

日本海支部会 新深浦町漁協 山下 幸彦

令和5年8月22日に、日本海ブロック漁業士研修会が福井県福井市にある福井県水産会館で開催され、青森県からは私が参加しました。

研修会では、開催県である福井県から話題提供として、「越前がれい」や「敦賀真鯛」などのブランド魚の取組や、「ベにすわいがにかご漁業」の資源管理と高付加価値化のほか、「定置網への急潮被害と対策」など6課題について報告されました。取組が多岐にわたり、どの報告も非常に興味深い内容でした。

また、令和6年度全国漁業士連絡会議に向けて、各府県から提案されたディスカッションテーマについての話し合いが行われ、青森県でも後継者不足が大きな課題となっていますが、京都府と山口県が提案した「漁業就業者や後継者の育成・確保について、漁業士ができること」が次回のテーマに選ばれました。

漁業士として、新規就業者確保のために何ができるかを考えていかなければならないと改めて思いました。



研修会の様子



令和6年度日本海ブロック漁業士研修会

日本海支部会 新深浦町漁協 山下 幸彦

令和6年度の日本海ブロック漁業士研修会は令和6年10月1～2日に「岸壁の母」で有名な京都府舞鶴市で開催されました。

○研修会

1日目の研修会は、舞鶴市内のホテルにおいて開催され、山形県と新潟県、石川県、福井県、山口県、京都府、本県の7府県の漁業士及び府県職員計48名が参加しました。

研修会では、京都府における海業の取組や磯焼け対策、電子入札システムの導入等による漁業振興状況と各府県における現在の漁業に関する課題などが発表され、活発な意見交換が行われました。

○現地視察

2日目の現地視察は、舞鶴地方卸売市場とドラマや映画のロケ地で有名な「伊根町の伊根浦船屋保存地区」を視察しました。

舞鶴地方卸売市場では、「電子入札システム」の運用状況を視察しました。この市場には、京都府内全域から魚介類と仲買人が集まることから、「電子入札システム」により、逐一各地の水揚げ状況確認と出荷体制を組み、一大消費地である大阪や京都へ鮮度を保ったままスムーズに出荷できるメリットがあることを知りました。

また、伊根町の伊根浦船屋保存地区では、この地域の漁業者が観光のための「水上タクシー（遊覧船）の運行」や「空き家を利用した宿泊施設の運営」と漁業（定置網とブリやマダイ、クロマグロの養殖）を両立し、昨今よく耳にする「海業」で生計を立てており、生計を立てるまでの苦労などを知りました。

○最後に

このブロック会議を通して、日本海沿岸の漁業者は、「漁業後継者問題」と「海の環境変化への対応」について懸念しており、解決策を模索していることを共有できました。また、懇親会では、京都府漁業士から振舞われた「丹後とり貝（養殖トリガイ）」の味は非常においしく忘れられないものになりました。



研修会の様子



伊根浦船屋保存地区



令和5年度東日本女性漁業士交流会

むつ支部会 川内町漁協 ハ戸 洋子

令和5年8月23日～24日、東日本女性漁業士交流会が、私の地元である青森県むつ市にて行われました。

1日目の講演では、(株)尾駮鮮魚団の代表取締役、橋本翔氏による、漁業の6次産業化についてのお話がありました。

尾駮鮮魚団は、ほとんど無名の六ヶ所村・尾駮産の魚介類を、6次産業化で付加価値を付け、「尾駮ブランド」として確立することを目的に、SNSや県産品の流通拡大支援の取組である「A!プレミアム」を活用した鮮魚販売や、県内外のイベントへの参加、商品価値が低い魚介類を活用した加工品開発に取り組んでいます。漁船漁業において、これまでの主力魚種であるスルメイカやサケの記録的不漁が続く昨今、尾駮鮮魚団のような「獲れる魚をなるべく高く売る」という取組は、ますます重要になると思います。

猛暑に見舞われた2日目は、恐山参詣からはじまり、皆汗を流しながら散策していましたが、その後に下北物産センターで行われた昼食のバーベキューでは、名産のホタテ、アワビ、東通牛が振る舞われ、他県からの参加者に大変喜んでいただけました。

そして話もつきることなく別れの時間となり、来年度の開催県である茨城県での再会を約束し、解散しました。

最後に私事になりますが、私は今年度で定年となるため、来年度は会の運営から退く予定です。様々な出会いに恵まれ、心の底から「漁業士になってよかった」と思います。そして、むつ支部会のみなさん、今まで色々なわがまをきいてくれて、ありがとうございました。



交流会の様子



令和6年度東日本女性漁業士交流会

日本海支部会 鮭ヶ沢町漁協 長内 詩子

令和6年度の東日本女性漁業士交流会は、令和6年11月17日～18日に茨城県水戸市と大洗町で開催され、岩手県と宮城県、茨城県、本県の女性漁業士と各県担当職員等の計22名が参加しました。その内容を御報告します。

17日の研修会では、茨城県水産試験場の松井回遊性資源部長から「常盤南部・鹿島灘海域における魚種組成の変化」と題して講演が行われました。講演後は、グループ討議が行われ、日頃から感じている地先で水揚げされる魚種組成変化のほか、現在の漁業士活動について意見交換を行いました。

このグループ討議での意見交換では、「これまで獲れていた魚種が獲れなくなっていること。」と「女性漁業士の数が減少しており、活動を取り組むことが難しくなっていること。」が各県女性漁業士の共通課題であることがわかりました。

次の日、18日の現地視察では、大洗町へ行き、大洗町漁協で実施している同漁協女性部員が取り組む「大洗地魚とれたて市」や「漁協直営食堂・かあちゃんの店」、若手漁業者らによる「漁業体験・観光ツアー」といった「海業」の事例についての説明を受けました。

ここでも女性部員から「部員の高齢化（平均年齢60歳）」と「同部員数の減少」が課題であることを聞きました。しかし、現在活動している女性部員からは「少しずつできる活動することを念頭に置き、今の活動を行っている。」と話していることが印象的でした。

この交流会に参加しとても勉強になりました。次年度は、宮城県で開催される予定です。今回参加した他県の女性漁業者たちとまた会えることを楽しみに、これからの漁業士会活動に取り組んでいきたいと思っています。



研修会の様子



現地視察の様子



支部会トピックス

○令和5年度東青漁業士会

野辺地町漁協 横濱 福太郎

東青漁業士会が令和5年度に行った主な活動をご紹介します。

○ほたてキャラバン隊出動！

東青漁業士会では、青森県ほたて流通振興協会と共に、「青森ほたてキャラバン隊」として県内各地の小学校を訪問し、「青森ほたて」出前講座を続けています。

今年度は3校に訪問し、小学生が「青森ほたて」を身近に感じて貰えるように、会員が親しみやすくかつ熱心に「ホタテガイ養殖の講義」や「ホタテほやき体験」を行いました。講義では、漁師ならではの豆知識を盛り込んだユニークな説明が行われ、ほやき体験では子供たちが生のホタテに触れながら楽しそうにほやいていました。

小学生から楽しい講座に感謝の言葉がたくさん寄せられ、地元産品に対する新しい興味や理解が芽生えたと思います。今後も子供たちが笑顔で学べるような講座を目指して取組を続けていきたいです。



出前講座の様子

東青漁業士会が令和6年度に行った主な活動についてご紹介します。

○東青漁業士会創立30周年記念式典開催

今年度、東青漁業士会は創立から30年を迎えました。これを記念してウェディングプラザアラスカにおいて式典を開催し、来賓をお招きし盛大に祝うことができました。

式典では、東青漁業士会の活動について報告したほか、特別講演として、東北大学名誉教授の尾定誠様よりホタテ養殖業とそれを取り巻く環境について講演いただき、また県水産振興課の松尾みどり様から、青森県の漁業振興について講演いただきました。

関係者の皆様におかれましては、引き続き東青漁業士会の活動にご理解、ご協力をお願いいたします。



記念式典の様子

○ほたてキャラバン隊出動！

東青漁業士会では、青森県ほたて流通振興協会と共に、「青森ほたてキャラバン隊」として県内各地の小学校を訪問し、「青森ほたて」出前講座を続けています。

今年度は2校に訪問し、小学生が「青森ほたて」を身近に感じて貰えるように、会員が生徒一人一人に寄り添い、ホタテ養殖業の話やホタテのほやしき方の授業を行いました。

今後も子供たちが笑顔で学べるような講座を目指して会員の派遣を続けていく所存です。



出前講座の様子

○水産振興課主催の料理教室支援

「若者世代に向けたあおもりの魚食普及事業」の一環で、令和5年11月9日（木）は八戸学院大学で北向指導漁業士（百石町漁協）がサケについて、令和6年2月28日（水）は青森中央学院短期大学で北向指導漁業士と木田指導漁業士（市川漁協）がホッキガイについて講師となり、料理教室の支援を行いました。

学生達は四苦八苦しながらサケやホッキガイを捌き、完成した料理を喜んで食べていました。



八戸学院大学にて



青森中央学院短期大学にて

○研修会

令和6年3月12日（火）に八戸商工会議所で、コロナ禍以降3年ぶりに三八漁業士会研修会を開催しました。

農林水産部水産局水産振興課企画・普及グループの立田技師を講師として招き、「令和6年度から始まる農林水産分野の政策パッケージにおける養殖関連事業」について説明していただき、参加者は熱心に聴講していました。



研修会の様子

○園児への小川原湖に関する水産教室

令和6年3月18日（月）に青森原燃テクノロジーセンターにおいて開催された東北ロータリークラブ主催の東北町内の保育園児約90名を対象とした水産教室に、小川原湖漁協所属の指導漁業士3名（濱田正幸、沼辺正孝、千葉優士）が講師として参加しました（昨年に続き2回目）。

園児達はゆるキャラ（ロータくん、しじみーる、決め手くん）と楽しみながら地元の小川原湖の漁業について理解を深めました。



水産教室参加者の集合写真

○園児への小川原湖に関する水産教室

令和7年3月17日（月）に青森原燃テクノロジーセンターにおいて開催された東北ロータリークラブ主催の東北町内の保育園児約90名を対象とした水産教室に、小川原湖漁協所属の指導漁業士3名（濱田正幸、沼辺正孝、千葉優士）が講師として参加しました（昨年に続き3回目）。

園児達はゆるキャラ（ロータくん、しじみーる）と楽しみながら地元の小川原湖の漁業について理解を深めました。



水産教室参加者の集合写真

○研修会

令和7年3月18日（火）に八戸商工会議所で、三八漁業士会研修会を開催しました。農林水産部水産振興課企画・普及グループの大澤主幹を講師として招き、「あおもりの漁師祭」について説明していただき、参加者は熱心に聴講していました。



研修会の様子

○ヒラメ種苗放流

日本海支部会では、ヒラメ資源の維持増大の必要性を改めて考え、令和5年8月7日に青森県栽培漁業振興協会が行ったヒラメ稚魚の放流に参加しました。

放流当日の気温と港内の水温がともに30℃と非常に高く、ヒラメの放流稚魚が死んでしまわないかと心配しましたが、元気よく海底へと泳いでいくのを見て、一安心しました。

ヒラメ稚魚が順調に育ち、大きくなって漁獲されることを願うとともに、単価向上にむけた取組も考えていきたいと思います。



ヒラメ種苗放流の様子

海浜清掃

コロナ渦で活動を自粛していましたが、令和6年6月29日（土）に五所川原市脇元海岸において、五所川原市第一高校「じゃわめき隊」と「一般社団法人ミライク」の生徒及び保護者のほか、五所川原市職員と日本海支部会員の総勢70名で、「市浦清掃活動大作戦」と称して海浜清掃を行いました。

快晴のもと、当支部会の山下会長の挨拶と号令で海浜清掃を開始し、若い人々との交流をしながら、汗を流しゴミを拾い、瞬く間にトラックの荷台は集めたゴミでいっぱいになりました。ゴミの中には、海外から流れ着いたものだけではなく、近年の大雨により流れてきたと思われるものも多く見られました。

この機会に地元の若い人々との交流を進め、漁業を知ってもらう活動に繋げていければと思っています。最後に、今回の取組と清掃後のゴミ処理には五所川原市市浦総合支所の御協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



海岸清掃の様子

むつ支部会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動困難な状況が続いておりましたが、令和5年には、水産教室、通常総会及び研修会、令和2年から中止としていた豊漁・豊作祈願祭神事を実施することができました。

○水産教室

令和5年6月2日には関根小学校で奥川名誉漁業士が、令和5年6月20日には風間浦小学校で、木下青年漁業士が講師を務めて水産教室を開催しました。関根浜ではスルメイカ、風間浦ではミスダコをテーマに座学や触れあい体験を行いました。

○豊漁・豊作祈願祭神事

令和5年10月13日に田名部神社で実施し、青森県漁業士会むつ支部会長、下北地域県民局地域農林水産部長、下北地方水産事務所長、各漁業協同組合代表理事組合長、漁業士会むつ支部会会員出席のもと、玉串奉奠を行い豊漁・豊作を祈願しました。

○研修会

令和6年2月16日にはねやホテルにて、令和6年度第1回研修会を開催しました。第64回青森県青年・女性漁業者交流大会で発表した「下北の小さな港から大きな海へー小さな想いは地域を変えるー」について、株式会社尾駁鮮魚団代表取締役、橋本翔さんに発表していただきました。発表後には、橋本さんの活躍を期待して出席者から激励の拍手が送られました。

当支部会においては、研修会で学んだことも生かしながら、イベント等を開催することで、少しでも浜の賑わい再生の一助を担っていきたいと思っておりますので、関係機関の皆様には引き続き御支援、御協力をお願いいたします。



水産教室の様子



祈願祭神事の様子

令和6年度、むつ支部会では水産教室、豊漁・豊作祈願祭神事を実施しました。

○水産教室

令和6年6月7日には関根小学校で奥川名誉漁業士が、令和6年7月9日には風間浦小学校で私が講師を務めて水産教室を開催しました。

関根ではサケ類について学ぶ座学、関根の定置網で漁獲された水産物との触れ合い体験を実施しました。風間浦ではスサビノリについて学ぶ座学、板ノリ加工体験を行いました。

○豊漁・豊作祈願祭神事

令和6年10月31日に田名部神社で豊漁・豊作祈願祭神事を実施しました。青森県漁業士会むつ支部会会長、下北地域県民局地域農林水産部長、下北地方水産事務所長、各漁業協同組合代表理事組合長、漁業士会むつ支部会会員出席のもと、玉串奉奠を行い豊漁・豊作を祈願しました。

当支部会においては、研修会で学んだことも生かしながら、イベント等を開催することで、少しでも浜の賑わい再生の一助を担っていきたいと思っておりますので、関係機関の皆様には引き続き御支援、御協力をお願いいたします。



豊漁・豊作祈願祭神事の様子



水産教室の様子



風間浦小水産教室の様子

第65回青森県青年・女性漁業者交流大会

令和6年1月24日（水）、青森市の県民福祉プラザにおいて「第65回青森県青年・女性漁業者交流大会」が開催されました。4人の発表者がそれぞれのテーマに沿って、その活動の実績を発表しました。

男性部門では、「ナマコ資源の増大を目指して一末永く漁業を続けるためにー」を発表した蓬田村漁業協同組合 福田 伸吾さんが、女性部門では、「未来ある子どもたちへーふるさとを誇りに思う心を育てる活動ー」を発表した新深浦町漁業協同組合北金ヶ沢漁協女性部 副会長 古川 馨さんがそれぞれ優秀賞を受賞しました。

優秀賞を受賞したお二人は、令和7年3月に開催予定の「第30回全国青年・女性漁業者交流大会」で、本県代表として発表することになりました。



交流大会の様子

第29回全国青年・女性漁業者交流大会

令和6年3月6、7日に東京都千代田区のホテルグランドアーク半蔵門で開催された「第29回全国青年・女性漁業者交流大会」において、「第64回青森県青年・女性漁業者交流大会」で「下北の小さな港から大きな海へー小さな想いは地域を変えるー」を発表し優秀賞を受賞した、株式会社尾駁鮮魚団 代表取締役 橋本 翔さんが【水産庁長官賞】を受賞しました。



交流大会の様子

第66回青森県青年・女性漁業者交流大会

令和7年1月29日（水）、青森市の県民福祉プラザにおいて「第66回青森県青年・女性漁業者交流大会」が開催されました。3人の発表者がそれぞれのテーマに沿って、その活動の実績を発表しました。

「漁師縁組の取組について」を発表した佐井村漁業協同組合 家洞 昌太さんが優秀賞を受賞しました。

優秀賞を受賞した家洞 昌太さんは、令和8年3月に開催予定の「第31回全国青年・女性漁業者交流大会」で、本県代表として発表することになりました。

※ 「第67回青森県青年・女性漁業者交流大会の開催日は、令和8年1月の予定です。



第30回全国青年・女性漁業者交流大会

令和7年3月4、5日に東京都中央区のAP日本橋で開催された「第30回全国青年・女性漁業者交流大会」において、「ナマコ資源の増大を目指して一末永く漁業を続けるために」と題して蓬田村漁業協同組合 福田 伸吾さんが、女性部門では、「未来ある子どもたちへ一ふるさとを誇りに思う心を育てる活動」と題して新深浦町漁業協同組合北金ヶ沢漁協女性部 副会長 古川 馨さんがそれぞれ発表を行い、福田 伸吾さんが【農林中央金庫理事長賞】を、古川 馨さんが【全国漁業協同組合連合会会長賞】を受賞しました。



交流大会の様子



「つくる、育てる、稼げる」あおもりの漁業創出事業

本県の漁業はスルメイカやサバ、サケの不漁に見舞われているほか、魚介類の住みかとなる藻場では磯焼けが発生しており、藻場の減少は今後も一層進むと見込まれることから、アイナメ、ソイ類などの根魚、ウニやアワビなどの磯根資源の減少も進むことが予測されています。

また、本県においては人口減少が大きな問題となっていますが、中でも漁村人口の減少が著しく、漁業の衰退と地域の活力低下が今後一層深刻になると考えられます。

これらの課題に対応するためには、まずは当事者である漁業関係者が、各浜の抱える課題や、浜の未来について自ら考え、行動し、取組を継続していく体制を構築することが重要です。

このため、漁業関係者に浜の現状に対する当事者意識を持ってもらい、海藻類や魚類の増養殖、海業の取組による「つくる、育てる、稼ぐ」ための意識醸成を進めるとともに、その実現性について議論する「地域座談会」を開催し、「誰かが浜の未来を変える」ではなく「自分たちで浜の未来を変える」ため、漁業関係者が行動を興すことで、将来的な漁業所得の向上につなげていきたいと考えています。

各地域座談会の様子



東青地域

三八地域

西北地域

下北地域

新規漁業就業者の受入支援について

県では、新規就業者の確保・定着を促進するため、新規就業者と受入漁業者とのマッチングや長期の専門技術研修、新規就業者が地域に定着するまでのフォローアップ等を組み込んだ「新規漁業就業者確保・定着支援プログラム」を構築することとしています。

また、インターンシップの実施や、新規漁業就業者向けサイト「あおもり漁師への道」による求人情報等の発信も引き続き行っていきます。



青森県の新規漁業就業希望者向けサイト
「あおもり漁師への道—あおもりで漁師目指そう—」

漁業後継者育成研修 ひん よう じゅく 賓 陽 塾

令和7年度受講生募集のお知らせ

【研修内容】

- 1 漁業基礎研修（8月～9月：水産総合研究所）
 - ・水産知識 漁業関係法令・制度、栽培漁業・資源管理
簿記漁業経営、ホタテガイ養殖、漁獲物の
鮮度保持
 - ・漁業技術 ロープワーク（各種ロープさつま加工など）
沿岸漁業実習（ホタテガイ養殖）
 - ・視察研修 県内の水産関連施設



- 2 資格取得講習（8月下旬：水産総合研究所）

一級・二級小型船舶操縦士（※）

※受講には、漁業基礎研修の参加が条件となります。

【募集要項】

募集人員：10名程度

通学方法：各自交通手段による通学制（水産総合研究所で行う研修を受講する場合は、同所内宿泊施設の利用も可能）

受講料：無料（資格取得のための経費は各受講者が負担）

応募資格：県内の漁業後継者または県内の漁業へ就業を希望する者（性別・年齢不問）

受付期間：令和7年4月1日～5月31日

随 時 受 付

出 前 講 座

対象：県内の漁協青年部や漁業研究会等の団体 開催人数：10名程度 開催場所：現地

内容：各種ロープワーク（さつま加工等） 開催期間：4月～3月

《お問い合わせ》

青森県農林水産部水産局水産振興課企画・普及グループ

電話：017-734-9592

地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所

電話：017-755-2155

青森県青森水産事務所

電話：017-765-2520

青森県八戸水産事務所

電話：0178-21-1185

青森県鰺ヶ沢水産事務所

電話：0173-72-4300

青森県むつ水産事務所

電話：0175-22-9732

浜風編集委員

伊勢田 啓 二（白糠漁協）
関 野 稔（八戸鮫浦漁協）
坂 崎 祐 也（風合瀬漁協）
横 濱 福太朗（野辺地町漁協）



青森県漁業士会会報「浜風」7.4 vol.29
